

# ストリートファッションにおける色彩調和のプロトタイプの研究(1)

## A Study on the color-coordinate prototype of the street fashion

渡辺明日香  
城 一夫

Asuka Watanabe  
Kazuo Jo

共立女子短期大学  
共立女子短期大学

Kyoritsu Women's Junior College  
Kyoritsu Women's Junior College

キーワード: ストリートファッション, アイテム・コーディネート, ファッション・カラー, 色彩調和のプロトタイプ

keywords: Street-fashion, Item-coordinate, Fashion-color, Color-coordinate prototype

### 1. 本研究の着眼点

衣服における色彩調和の考え方は、図1.に示すごとく、身体色から、素材、衣服の面積、着装方法などの総合的な判断によってなされねばならない。特に衣服については、直接肌の上に身に付けるものだけに、肌色、顔色、髪の毛、虹彩などの色に大きく影響を受けるため、「パーソナル・カラー」の立場から、色々な考え方が発表されてきた。だが、本研究では、身体色に関わる立場を離れ、衣服の着用の仕方、すなわち、コーディネートにおいて、どのような考え方になされているのかという点に焦点を当て、ストリートファッションでのコーディネートを対象に調査、研究を行なった。

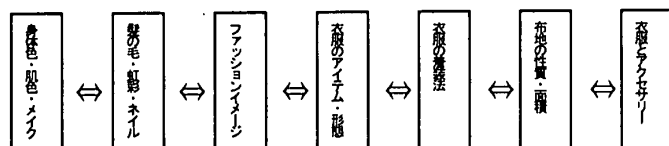


図1. ファッション・カラーを構成する要因

### 2. 標本の対象・調査方法

当研究室では、1994年5月より、東京都内の主要なファッション・ストリートである原宿・渋谷・銀座・代官山において、街頭での定点観測を毎月実施している（代官山の調査は2000年1月から）。主に若い女性のファッションを対象に、トレンドの変化や服装色の定量的な実態把握を目的として、経年的な調査を行なっているものである。

本研究では、1999年1月～2001年12月までの3年間にわたるストリートファッションでの実際のコーディネートサンプルとし、イメージ分類、配色、コーディネートのパターンについて調査・分析を行なうこととした。

標本の収集方法として、1999年1月～2001年12月の毎月1回、土日、又は祝日の11:00～16:00の時間に、原宿（ラフォーレ原宿・表参道周辺）、渋谷（渋谷109・センター街周辺）、銀座（松屋・中央通り周辺）、代官山（駅前）にて定点観測を行ない、服装及び服の色の選択

が比較的自由意志によって決定され、またトレンドが反映されやすいと考えられる若い女性の写真撮影をした。

標本数は、調査日や地点の違いで多少のばらつきはあるものの、毎月、各地点ごとに約70～200体、3年間でサンプル数はおよそ14,000体である。

### 3. ファッションのイメージ分類

ファッション・カラーは身体色、肌色との関係、メイクの色、衣服のアイテム、形態、アクセサリとの調和など、非常に多岐にわたっている。加えて、ファッションのイメージも大きな影響を与えることは周知の事実であり、ファッションのイメージがロマンティックであれば、柔らか味のあるソフトで甘いイメージの色調になるし、アヴァンギャルドであれば、原色や白黒を用いた激しい色彩が用いられることが一般的であり、着用者も服のイメージに合わせて色を選択することが想定される。

ファッションを構成するイメージは無限にある。ロラン・バルトが言うように、ファッションは「意味のない文化の香り」を塗すことによって成立するものであるだけに、ファッション・イメージはレトロからエスニックまで、時空を越えて存在する。ただし、本研究ではファッションにおける色彩調和のプロトタイプを規定することを主眼としているため、ファッション・イメージを出来るだけ分類・整理することが必要であると考え、図2.に示すように、主要5つのイメージに総括した。なお図にはそれに含まれる同類項のイメージを併せて網羅した。

| 総括イメージ    | 同類イメージ                     |
|-----------|----------------------------|
| ①カジュアル    | スポーティー、マリン、ワーク、アクティブ、ナチュラル |
| ②フェミニン    | ロマンティック、エレガント、シック、セクシャル    |
| ③コンテンポラリー | トラディショナル、コンサバティブ、アイビー      |
| ④フォークロア   | エスニック、カントリー、ベザント           |
| ⑤アヴァンギャルド | ポップ、モダン                    |

図2. ファッション・イメージの分類

#### 4. コーディネートのタイプ分類

衣服のアイテム、形態、サイズなどは、カラー・コーディネーションに極めて重要なファクターである。ロング・ドレスとミニ・ドレスとでは、同じドレスであっても、見る人に対する視覚的な効果や訴求力が異なってくる。一般的に丈の長いドレスは、原色調の色では余りに印象が強くなり、反対に丈の短いドレスでは低彩度の地味な色では、印象は希薄になる。また単品を一枚着ただけの場合と、トップもボトムも重ね着をし、それぞれ異なる色を選んだ場合とでは当然、印象も変化する。

そこで本研究では、ストリートファッションでみられるコーディネートについて、アイテム別、レイヤード別、アクセサリや小物で変化を出した場合なども含めて、類別してとりまとめ、衣服とアイテムとコーディネートの類型を図3のように整理した。

|   | 基本パターン         | レイヤード・小物アクセントを付加したパターン                         |
|---|----------------|------------------------------------------------|
| 1 | 上衣 または ワンピースのみ | 上衣 または ワンピースのみのレイヤード<br>上衣 または ワンピースのみ+小物アクセント |
| 2 | 上衣+下衣          | 上衣+下衣のレイヤード<br>上衣+下衣+小物アクセント                   |
| 3 | 上衣+中衣+下衣       | 上衣+中衣+下衣のレイヤード<br>上衣+中衣+下衣+小物アクセント             |
| 4 | 上衣+ワンピース       | 上衣+ワンピースのレイヤード<br>上衣+ワンピース+小物アクセント             |
| 5 | 上衣+ワンピース+下衣    | 上衣+ワンピース+下衣のレイヤード<br>上衣+ワンピース+小物アクセント          |
| 6 | 中衣+ワンピース+下衣    | 中衣+ワンピース+下衣<br>中衣+ワンピース+下衣+小物アクセント             |

図3. 衣服のアイテムとコーディネートの類型

#### 5. プロトタイプ別ファッション・カラーの配色類型

ここでは、ストリートファッションの写真をもとに、前出の3.ファッションのイメージ分類、および4.コーディネートのタイプ分類 に従い、衣服のアイテム、レイヤード、イメージを総括し、コーディネートの類型別に、汎用性の高いプロトタイプを抽出した。なお、本稿では基本パターンの配色類型のみまとめている。

##### 5-1. 上衣 または ワンピースのみ

上衣のもつイメージと色により、コーディネートの方法が異なる。コンテンポラリーな感覚のドレスでは、同一色の上衣に対照色相のアクセントを加えたもの、または無彩色の上衣に対象トーン・有彩色のアクセントをつけたものが多い。次にフェミニン、フォークロア、カジュアルな感覚のドレスでは、多色プリント、先染め等の素材が用いられることが多く、多色のリピート効果を小物に反映させるテクニックがとられる。ポップな感覚のドレスは、高彩度のテトラッド配色など、4色以上の多色配色を用いるケースがあるが、類似色相2色と対照関

係にある類似色相2色の配色や、類似色相3色に対照色相1色の配色など、調和が得られる色が用いられている。

##### 5-2. 上衣+下衣

いわゆるトップとボトムのコーディネートであり、ファッションの着用法としては最もポピュラーで、数の多い組み合わせであり、配色パターン也多岐にわたる。代表的な例として、①上衣・下衣を同一色相にする、②上衣・下衣を同一色相のトーン・オン・トーンやグラデーションでまとめる、③上衣・下衣を別色にして、さらにその一方の対照色相または中差色相をアクセントカラーに使用するなどがある。

##### 5-3. 上衣+中衣+下衣

ジャケットまたはブルゾンとブラウスやTシャツをトップに、スカートやパンツをボトムに合わせたコーディネートで、ストリートファッションの着装の大半がこの範疇に属する。着用アイテム数が3点以上となるため、変化に富んだ配色が展開できる。基本的には、①上衣・中衣・下衣をすべて同一色相にする、②上衣・下衣を同色にして、中衣だけを別にする、③上衣・中衣・下衣すべてを別色にする、に大別できる。コーディネートが比較的容易なのは①、②であるが、カジュアルやコンテンポラリー、アヴァンギャルドなイメージを出すには③がふさわしく、3色を類似色相や中差色相でまとめたり、トーン類似で統一感を出すなどの方法がとられる。

##### 5-5. 上衣+ワンピース+下衣

ワンピースの上にジャケットやガウンを着用したケースで、アイテムが少ないため一般的には①ワンピース・上衣が同色、②ワンピース・上衣が別色、③ワンピースまたは上衣が2色以上の配色のもの、などがある。全体の衣服の面積が大きいので、低彩度トーンを用いたり、無彩色を使って大人しくまとめるケースが多い。

##### 5-6. 中衣+ワンピース+下衣

近年のレイヤードスタイルの流行でワンピースにパンツを合わせた若者が増えているが、この類型に該当する。基本的には①中衣・ワンピース・下衣が同色、②3つのアイテムのうち2つを同色、残りを無彩色や対照色相にする、③中衣・ワンピース・下衣とも別々の色にする、などのパターンに分かれるが、アイテムの面積の違いや用いる色の位置などで様々なバリエーションがある。

#### 6. まとめ

本研究では、一般的な配色調和論ではなく、ファッションの着装におけるカラー・コーディネートに絞り、どのようなケースがあるのか、プロトタイプの構築を視座とした。具体的には、ファッションのイメージ分類ならびにコーディネートの類型をまとめた上で、該当する着装がいかなる配色でまとめられているかを調べた。その結果、多種多様なパターンが考えられるファッションのカラー・コーディネートの中でも、調和のとれるコーディネートのプロトタイプが存在することがわかった。